

資料3-7

干潟の環境学習等を通じて 行った保全活動報告

平成24年2月14日(火)

中央環境審議会瀬戸内海部会
企画専門委員会現地ヒアリング資料

特定非営利活動法人 瀬戸内里海振興会

瀬戸内海は青い海か・緑の海か

- みなと七夕祭り(アンケートを兼ねて)
- どんな瀬戸内海を残したいか
- どんな海に行ってみたいか
- どんな海になって欲しいか
- 平成18年7月
(広島・呉・徳山・高松各港)
- 平成19年7月
(広島・呉・徳山)



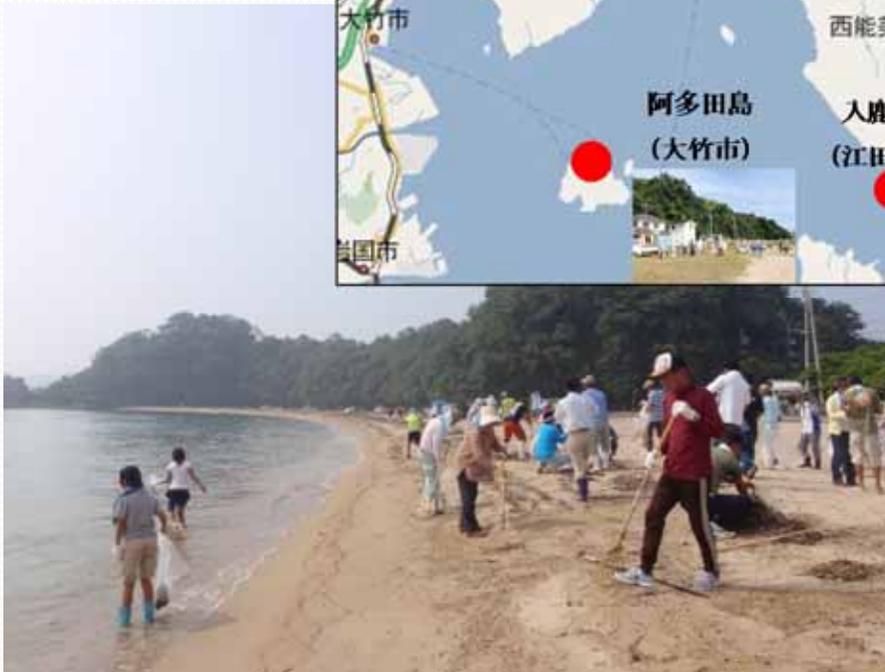
- 回答 綺麗な海と魚の沢山取れる海を期待している。

海辺の自然学校運営

- 瀬戸内海に面した（広島・岡山・山口）で実施

回次	平成年月	市	海岸	参加人数
1	16年 9月	呉市	人工海浜「かるが浜」	180
2	17年10月	竹原市	的場海岸	90
3	18年 10月	宇部市	白土海岸	100
4	18年 11月	呉市	大浦崎海岸	80
5	18年11月	玉野市	渋川海岸	100
6	19年 8月	江田島市	切串海岸	100
7	19年 8月	宇部市	キワラビーチ	90
8	19年 10月	備前市	鹿久居島	50
9	20年 8月	宇部市	キワラビーチ	90
10	20年 10月	廿日市市	宮島	80
11	21年 5月	福山市	田尻干潟	130
12	22年 10月	周南市	大島干潟	140
13	22年 11月	尾道市	海老干潟	90
14	23年 10月	周南市	大島干潟	140
15	23年 10月	玉野市	渋川海岸	45
計				1,505

海のリフレッシュ活動



海のリフレッシュ活動

平成22年度の取り組み

市町村名	実施場所	実施日時		ゴミ収集量(t)	ゴミの主な内容 簡単な種類	参加人数
		日	時			
広島市	広島みなと公園	7月4日	7:00~8:00	1.20	枯れ木, 空き缶等	200
呉市	呉市音戸町大浦崎海浜	7月3日	9:00~10:30	3.89	海草, 流木, ペットボトル等	400
大竹市	阿多田島沿岸	7月25日	6時~	11.00	不燃ゴミ, 流木, 草	154
廿日市市	地御前五丁目地先海岸ほか	7月17日	7:30~8:00	2.80	可燃, 資源, 大型等	320
	大野鳴川海岸	7月25日	7:00~	6.00	草木, ペットボトル等	250
江田島市	江田島市能美町中町長瀬海岸	7月9日	9:30~10:30	0.20	流木, ペットボトル及び 片用プラスチックパイプ	23
	江田島市能美町中町長瀬海岸	7月21日	8:30~11:00	0.10	流木, ペットボトル及び 片用プラスチックパイプ	52
海田町	瀬野川	6月20日	8:00~9:00	12.60	可燃, 不燃, 草, 泥等	3,404
坂町	坂町海岸全域・坂町海域	7月10日	7~9時, 14~15時	7.00	可燃ゴミ	1,000
大崎上島町	町内一円	7月18日	7:30~8:30	16.50	プラスチック	733
						0
合計				61.29		6,536

薄層撒きだし工法の検討

薄層撒き出し工法の特徴

- ・撒き出し厚2cm～50cmで選択が可能
- ・薄層撒き出しのため軟弱地盤への砂の潜り込みや底土のまき上がりが無く、生物や環境にやさしい
- ・浅い水深(1.5m程度)でも施工が可能
- ・撒き出し可能粒径は細砂から礫(40mm程度)まで

施工実績

- ・H20年:戸崎人工干潟覆砂工事(試験工事)
- ・H22年:広島港海岸中央東地区護岸安定化等工事

薄層撒き出し船団(起重機船+砂台船+薄層撒き出し機)



撒き出し状況



広島県東部海域里海保全活動の紹介(保全対象干潟名)



【造成の経緯及び背景】

尾道系崎港では、1984年より直轄事業として航路、泊地および岸壁の整理が実施されてきた。一方、地元漁業協同組合より、干潟整備に対する要望が出されていた。こうした状況を受け、土砂処分と干潟整備という2つの要請を同時に満たす事業手法として、干潟整備方式の事業が行われた。

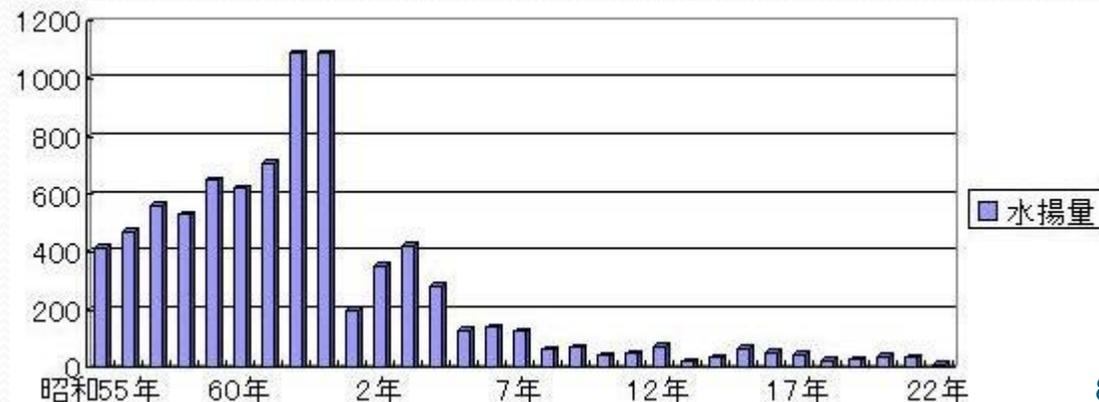


浦島漁業協同組合との協働

- 平成16年～現在まで海老干潟をフィールドで環境学習を実施

年次	水揚量トン	年次	水揚量	年次	水揚量
昭和55年	414	平成3年	419	平成14年	38
56	470	4	282	15	68
57	560	5	130	16	53
58	527	6	140	17	46
59	650	7	125	18	27
60	624	8	64	19	29
61	711	9	70	20	39
62	1086	10	44	21	38
63	1086	11	49	22	12
平成1年	200	12	73		
2	352	13	23		

- 参考：平成22年度
- 稚貝購入：21t
- 三重産
- 正組合員81名准組合202名
- 平均年齢70歳(H24年1月現在)
- 賦課金正15千円・准11千円





平成23年3月1日
(緊急雇用者と組合長)

保全活動を実施した人工干潟



保全活動の実績

○構成

土木指導者1人・水産指導者1人、建設機械運転手2人、人力作業員4名

○期間 平成23年3月1日～平成24年1月31日 (220日/人)

○不陸整地活動(撒き出し・不陸整正 平均潮位2m 作業範囲-50cm～+150cm)

①海老地区干潟 51,849m²(全体面積160,000m²) 1988年～1989年造成

②戸崎地区干潟 8,545m²(全体面積 96,000m²) 2000年～2007年造成

③灘地区干潟 16,560m²(全体面積40,000m²) 1995年～1996年造成

④海老呑地区干潟11,610m²(全体面積概略44,000m²) 不詳

⑤百島地区干潟 0m²(全体面積360,000m²) 1984年～1987年造成

○食害対策並びに稚貝定着促進活動(アサリ生息範囲0.0m～1.0m)

①海老呑地区干潟 159m (過去の実績0)

②百島地区干潟 124m (過去の実績0)

● その他調査関係(アサリの成貝の計測等)

海老呑干潟

着工前



耕耘



砂移動敷均し



完成



着工前(笹がけ)



完成後(笹がけ)



成貝調査



調査記録(アサリ成貝)



豊かな海を目指した課題(干潟を中心)

○漁場として利用しているもの

漁業者の後継者不足並びに高齢(当該海域は平均70歳)
漁場が貧栄養となっている。

○海洋開発をしているもの(航路浚渫・人工海浜等)

浚渫土の有効利用(航路)する場合の在り方

○係留保安施設としているもの(防波堤・岸壁等)

外来種の侵入対策・釣り対策

○下水・生活排水など利用しているもの(浄化槽・下水)

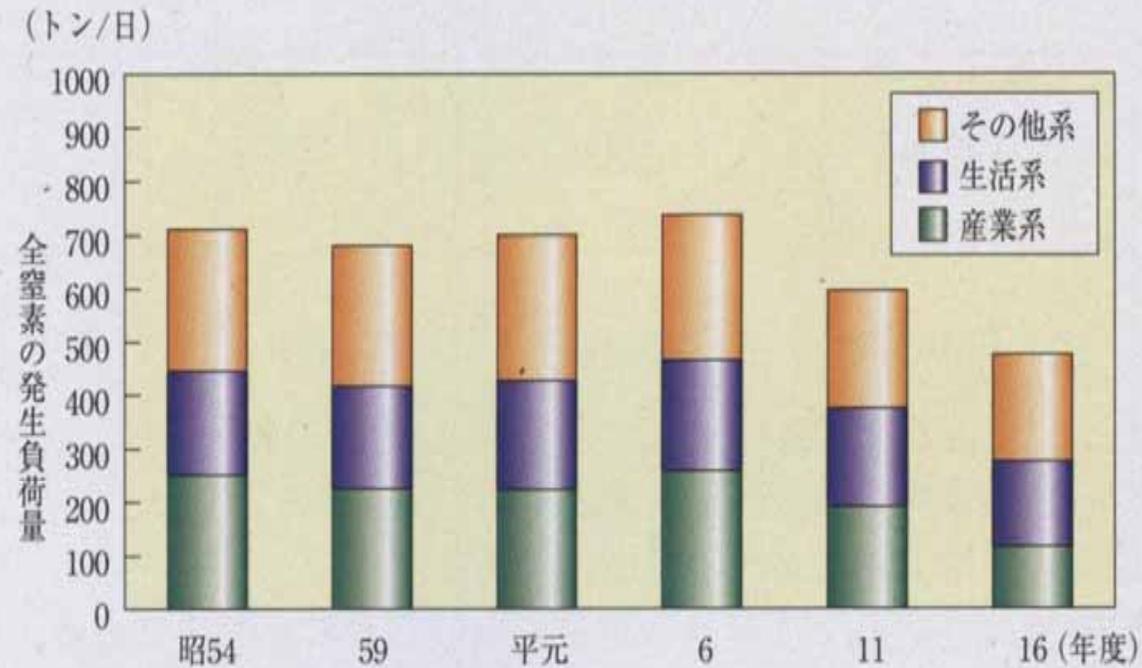
排出基準の見直し

○河川管理と治水(ダム・護岸)

土砂供給不足

これら、海を利用している主体が、環境基準等を知り得ているだろうか？

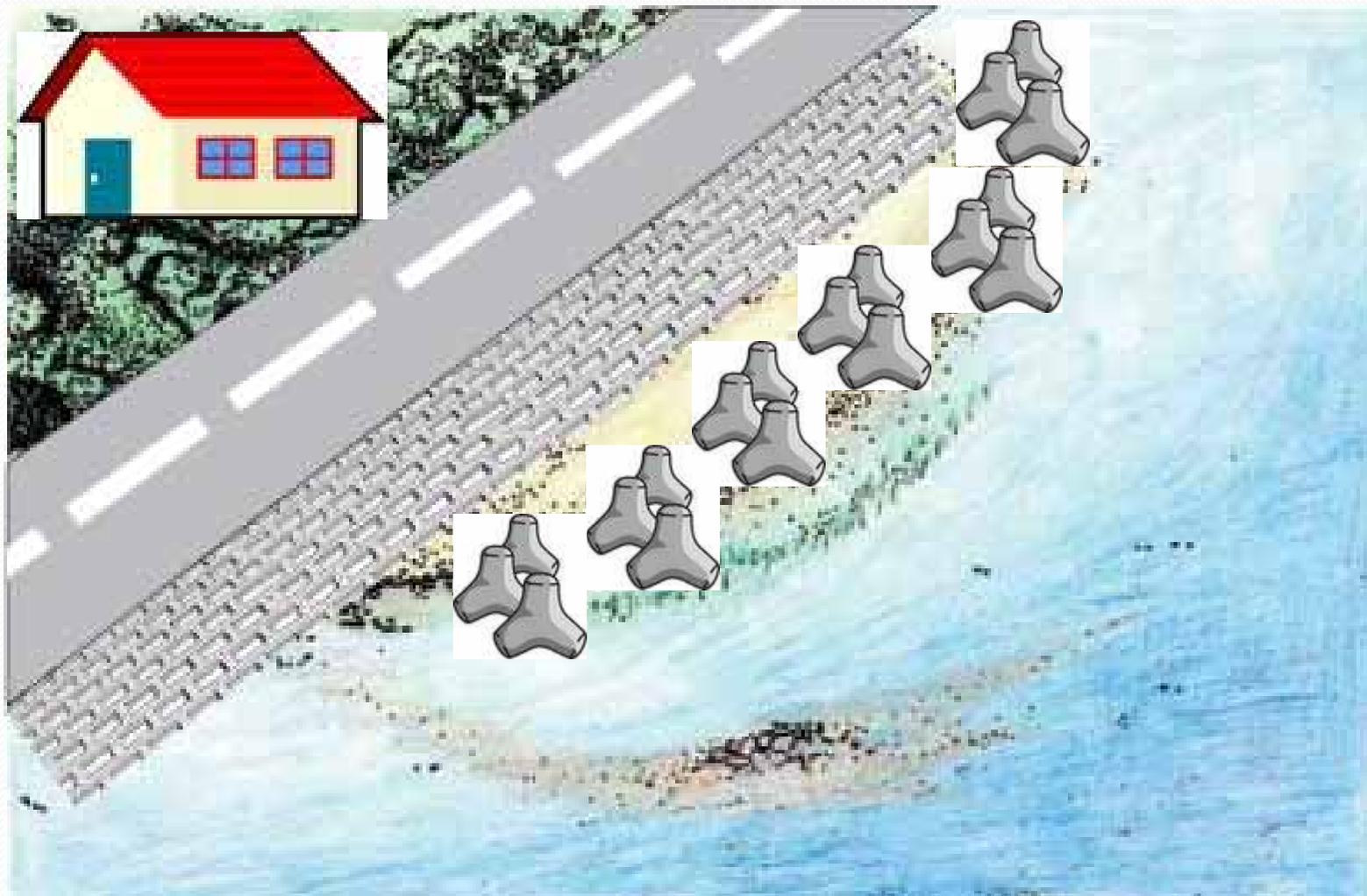
ノリ養殖の色落ちの原因とみられる栄養素の濃度低下(窒素不足)



出典：「瀬戸内海における窒素・燐の発生負荷量等解析調査報告書」(環境省)

図7-6 瀬戸内海における全窒素発生負荷量の推移

多様な主体による参加の仕組み



NPO活動として取り組めるもの

里海(さとうみ)活動の推進

- ① 海辺の自然学校を通じて水環境に興味を持ってもらう
- ② 漂着ゴミ・浮遊ゴミ・海底ゴミの回収活動を地域と協働し行う。
- ③ 生物生産の場・浄化機能の場としての保全活動
- ④ 賑わいの場・レクリエーションの場・交流の場としての活用を図る活動

海を大切にすゝる気運を醸成することに資する活動を目指します。

特定非営利活動法人 瀬戸内里海振興会 発足経緯と構成員

平成15年11月 瀬戸内海の魅力発信を行うことを目標にして発足
定款第3条:この法人は、瀬戸内海のふるさとの海である里海の保全、再生、創造、活用並びに周辺地域のまちづくりの推進等に関する事業並びにこれらの事業に係る全ての事業を行うことにより、地域の環境の保全と経済活動の活性化を図ることを目的とする。

構成会員:個人・法人正会員 75名(個人60・法人15)

賛助個人・法人会員 7名(個人6・法人1)

ボランティア会員 46名

寄付金会員 100名

役員:会長・副会長・理事長・副理事長・専務理事・常務理事・監事
20名 事務局5名(常勤3名)